MDP Saganto

MATCHDAY PROGRAM

明治安田 J1 LEAGUE

2024明治安田J1リーグ 第35節
@駅前不動産スタジアム

2024 Season 18

11.3(日・祝)

14:00 KICK OFF
vs FC町田ゼルビア

©2009 ZELVIA CO.,LTD.

見るものではなく、叶えるもの。夢の実現へ西矢健人は挑戦し続ける

MF 33
西矢 健人
Kento NISHIYA

西矢健人は極めて稀なサッカー人生を歩んでいる。高校を卒業後、数多くのプロ選手を輩出した明治大学サッカー部に進むも同期には後にプロに進むことになる選手たちが数多く、在籍。トップチームには絡めずにセカンドチームでプレーする日々が続いた。プロになりたい思いを抱きながらも高い競争の壁に阻まれ、コロナ禍の影響もあってJクラブのスカウトにアピールするはずの公式戦、練習試合は無観客となるなど困難を強いられた。突きつけられる現実に就職活動も行い、企業からの内定を受けていたが、「サッカーの世界で勝負したかった」という思いから内定を辞退し、当時、JFLだったFC大阪でのプレーを選択した。しかし、夢だった「サッカーを仕事にする」とはかけ離れた状況だった。「サッカー選手としての給料はゼロ」と西矢自身が振り返ったように午前中に練習をして、午後からはクラブのスポンサー企業で働く。大学の同期が華やかな世界でプレーするのとは対照的な日々だったが、それでも西矢は「上のカテゴリーに這い上がる」と夢をあきらめなかった。

FC大阪でJ3昇格を果たすとそこでのプレーが評価され、J2の藤枝へと移籍。藤枝で中心的な存在としてチームをけん引すると今年の夏、西矢の下に夢のオファーが届く。サガン鳥栖からの獲得オファーだった。大学卒業当時、「描けるはずもなかった」というJ1からのオファーを西矢はわずか2年半という期間で勝ち取ったのだった。しかし、向上心の塊のような男はたどり着いただけでは満足していない。「大事なのはここで何ができるか」、それは西矢が自分自身にずっと問いかけてきたことだ。「降格するかもしれない可能性があることはわかってここに来たし、それを絶対に覆したい」。加入時にそう話していた西矢だったが、決意は実らずに「実力不足」を突きつけられた。それでも、西矢は前を見据える。これまで自分の力で変えてきたのは未来だからだ。まだ、挑戦する機会は残されている。西矢は自らと向き合い、目の前の勝利のために全力を尽くす。

芋舗 芋屋金次郎 スペシャルマッチ